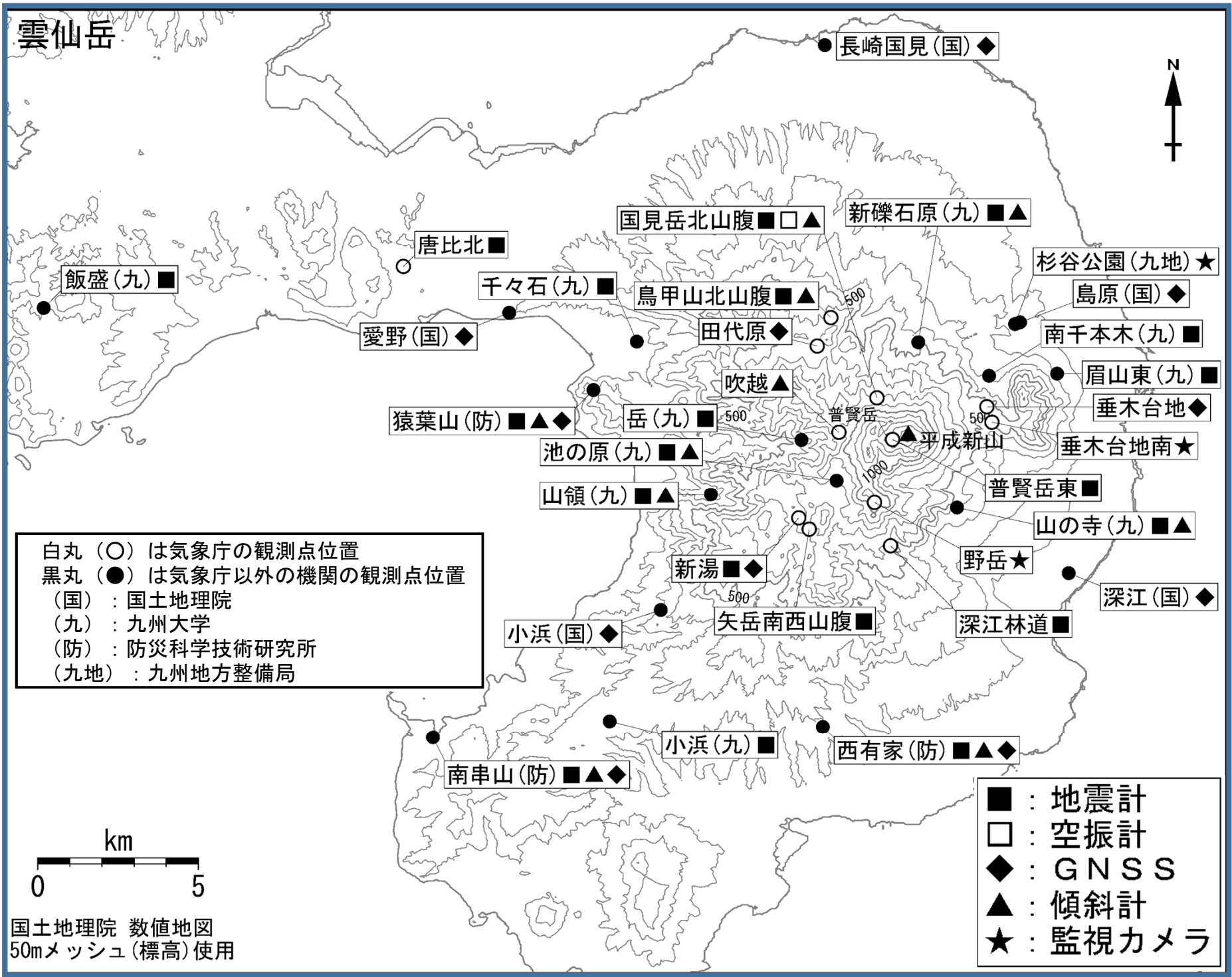


福岡管区気象台では、地震計や監視カメラ、傾斜計、GNSS等の観測機器を設置し、「地域火山監視・警報センター」において24時間体制で監視しています。

また、定期的に現地に赴いて、地熱などの観測を実施しているほか、火山活動が活発化または火山活動に異常がみられた場合に臨時に観測を行っています。

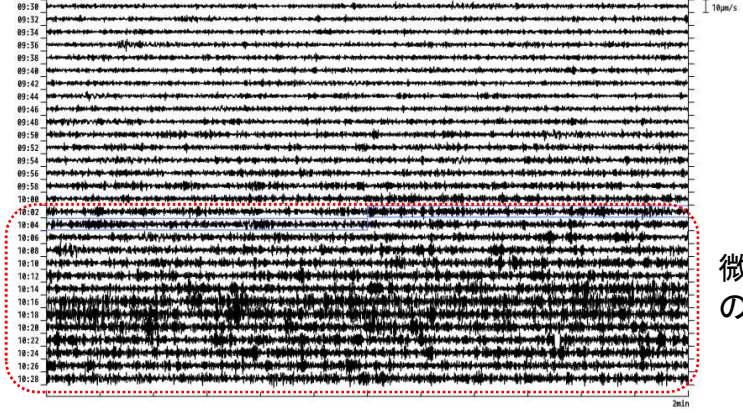
観測点配置図



● 震動観測（地震計）

火山体やその周辺で発生する火山性地震や火山性微動をとらえる

地震計

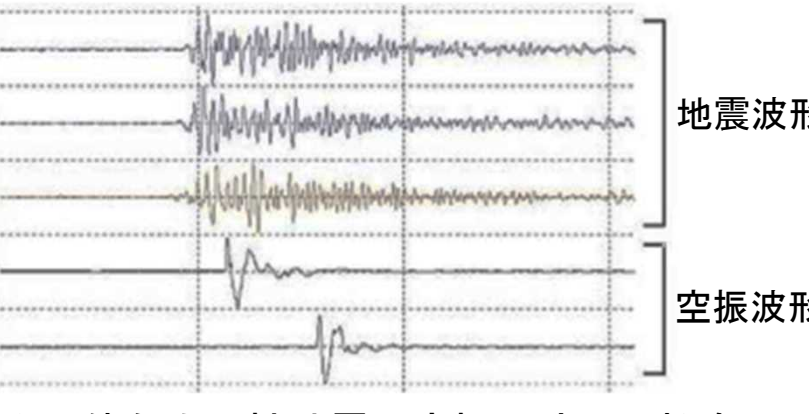


火山性微動の波形（阿蘇山）

● 空振観測（空振計）

噴火などによって周囲の空気が振動して衝撃波となって大気中に伝播する現象を観測する

空振計



爆発に伴う火山性地震と空振の波形（桜島）

● 監視カメラによる観測（高感度、熱映像装置等）

噴気の高さ、色、噴出物（火山灰や噴石）、火映などの発光現象等を観測する

監視カメラ



高感度カメラ

熱映像装置

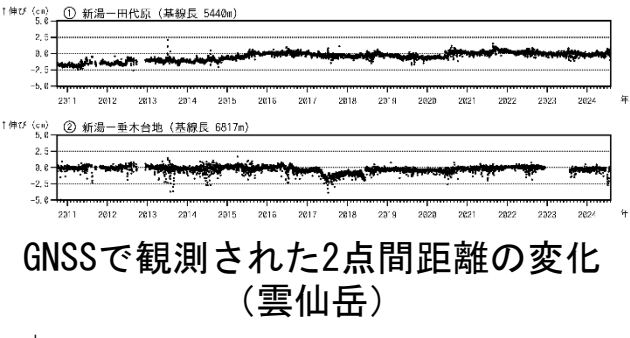
雲仙岳（垂木台地南観測点）の映像

● 地殻変動観測（GNSS、傾斜計等）

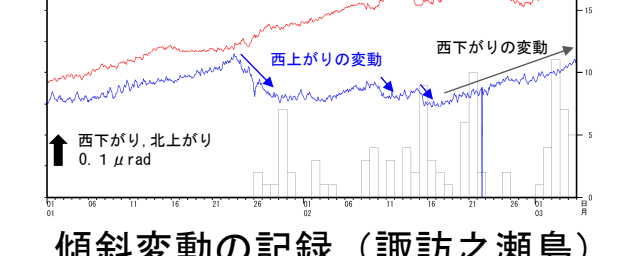
地下のマグマの活動等に伴って、地殻に力が加わって生じる地盤の傾斜変化や山体の膨張・収縮を観測する



GNSS観測装置



GNSSで観測された2点間距離の変化（雲仙岳）



傾斜変動の記録（諏訪之瀬島）



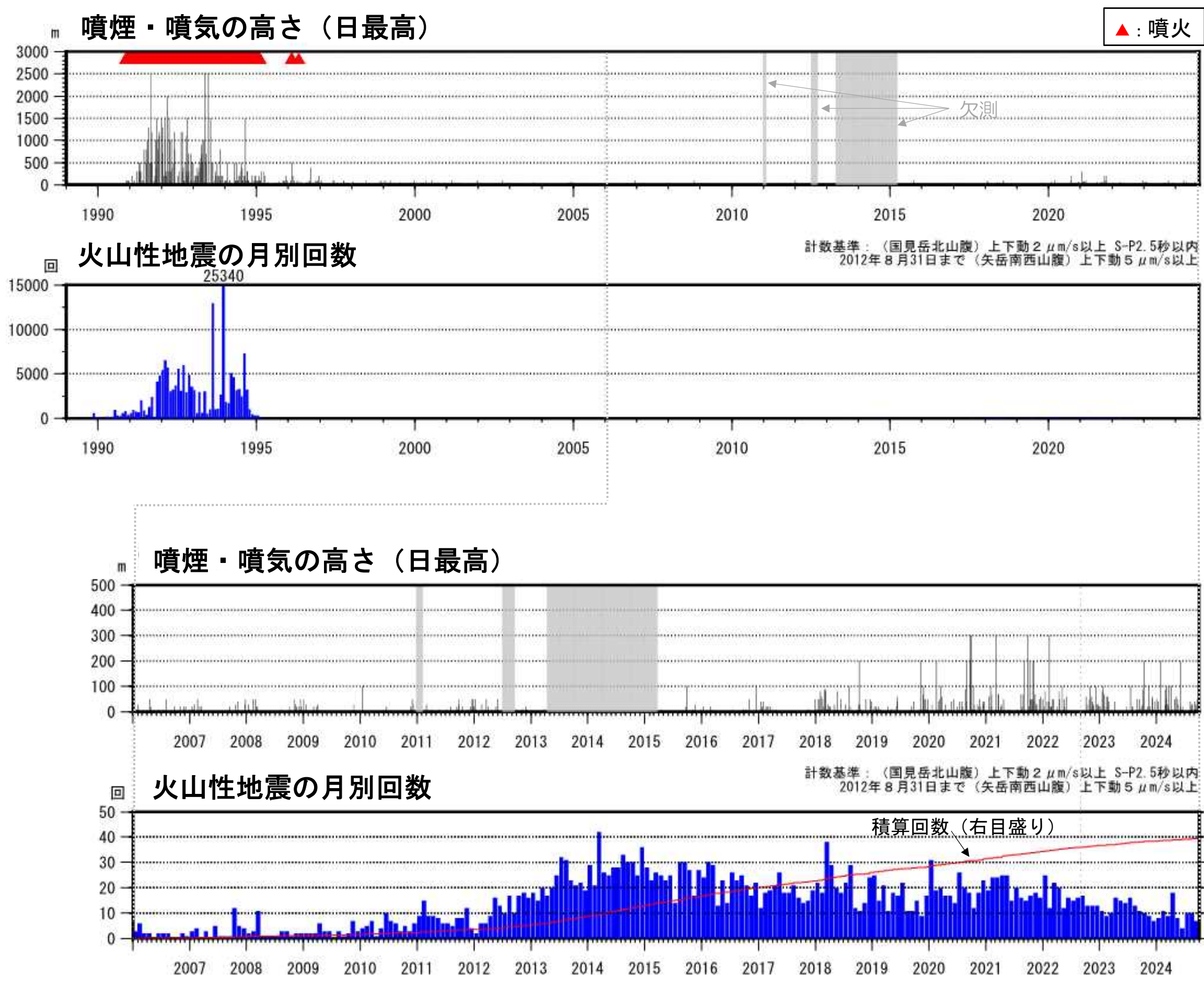
観測孔に埋設される傾斜計センサー

雲仙岳の火山活動状況

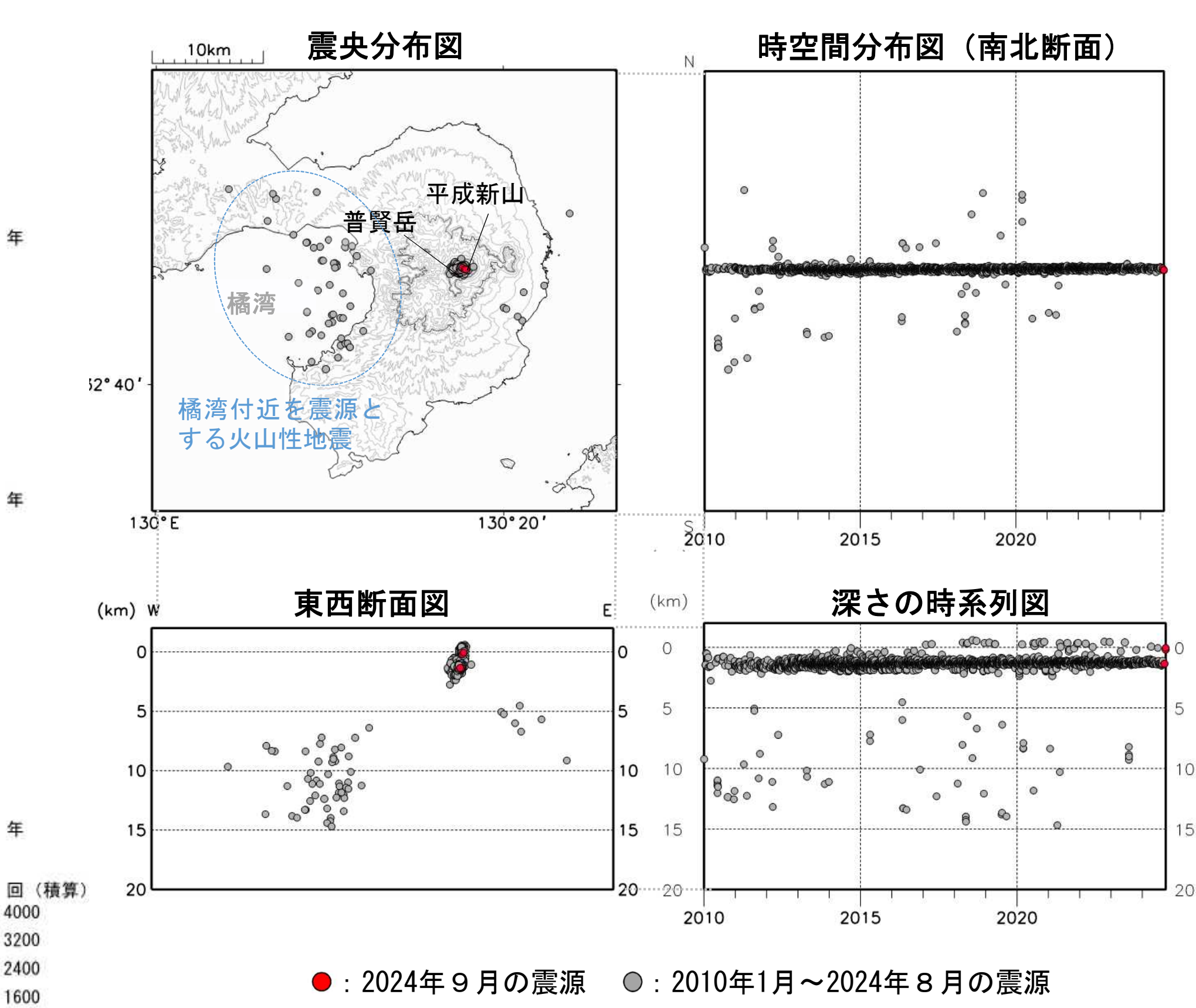
1990年から1996年にかけて、噴火活動に伴い溶岩ドームが形成され、ドームの崩壊に伴い火砕流が発生しました。2024年現在、火山活動に特段の変化はありませんが、2010年頃から普賢岳から平成新山直下の深さ1～2 kmを震源とする火山性地震が時々発生しています。この地震活動経過や、前回の噴火の前に見られた橘湾から島原半島への震源の移動がないかなどに着目し監視しています。火山活動に変化がみられた場合、福岡管区気象台は噴火警報や火山の状況に関する解説情報を発表し、警戒や注意を呼びかけます。

噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）

雲仙岳 火山活動経過図（1989年1月～2024年9月）



雲仙岳 地震分布図（2010年1月～2024年9月）



●：2024年9月の震源 ●：2010年1月～2024年8月の震源